

牛のひづめの状態を管理

電子カルテ開発

松高 会社
ソフト

ソフト開発のコヤマ・システム(高松市)はタブレット(多機能携帯端末)を使って、乳牛などのひづめの状態を管理する電子カルテシステムを開発した。1頭ずつひづ

めの状態を記録し、病気になることを防ぐほか、ひづめの部分ごとに状態を入力することで管理しやすくする。獣医師らに販売する。

開発した電子カルテ

「削レボ」は、同社が開発した電子カルテシステムと、パナソニック製のタブレットで構成する。価格は1システム63万円で、出荷を始めた。獣医師やひづめを管理

する削蹄(さくてい)師

がタブレットを使ってカルテにひづめの状態を入力するほか、内蔵カメラで写真を撮って映像でも保存できる。ひづめの各部分を選択でき、病気の状態などを入力しやすくなった。

個別の牛の管理だけでなく、牧場単位でもデータの管理ができる。牧場ごとにひづめの病気の傾

向などをグラフ化して、予防策など事前に対策ができるようにする。コヤマ・システムは年間20万頭の牛の健康管理を見込んで、販売を見込んで

乳牛など飼育されている牛は一般的に運動量が少なく、ひづめが伸びやすい。伸び過ぎると病気になるリスクが高くなるという。